



市民の声を市政に反映

# 杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行  
**761号** 2019年6月4日  
 〒300-1235 牛久市刈谷町 1-41-8  
 TEL・Fax : 870-0335  
 携帯 : 090-5587-7693  
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

# 日本の原発でテロ対策は可能か？

Ⓐ

作家の広瀬隆さんが「日本の原子力発電所でテロ対策は可能か？」と題して5月27日、警鐘となる文章を発表されました。大変参考になる内容ですので、上中下で連載させていただきます。

## 「同時多発テロ」の記憶

2001年9月11日に、ニューヨークの世界貿易センタービルに2機の航空機が突っ込んで双子ビルがガラガラと崩壊し、国防総省（ペンタゴン）にも攻撃が加えられた事件は、誰でもご記憶であろう。

この事件そのものは、実際には「テロ」ではなく、アメリカ合衆国が中東～アジアで犯してきた犯罪行為に対する因果応報と言うべき出来事であったが、結果としては、誰が、予期していなかった悲劇として、わが国では「同時多発テロ」と呼ばれてきた。

このような攻撃が、テロとして予期せず、原子力発電所に加えられないか？



世界貿易センタービル事件

もし攻撃が加えられた場合に、原発が事故を招かないように適切な対策がとられているかどうか、今頃になって原子力規制委員会で議論されている。そしてすでに原発を稼働してしまっている九州電力・関西電力・四国電力の電力会社が、テロ対策の工事を完了していないので、近く運転停止を余儀なくされるだろうとの、驚くべきマスコミ報道がおこなわれてきた。

## 今頃に規制庁が議論

「今頃になって」というのは、玄海原発・川内原発・大飯原発・高浜原発・伊方原発がテロ対策の工事を完了せずすでに運転中であるという意味だと思われるだろうが、それだけではない。これらの原発が再稼働に踏み切る前に、われわれが原子力規制庁に出向いて、「テロ対策をとることは不可能である」という説明のプレゼンテーションをおこないながら、それをまったく無視して原発の運転を許可したのが、規制委員会と規制庁の無責任で、無知な組織だ、という意味である。

よって、その説明を改め

前号2頁の県南水道企業団議会の記事で、5行目の「藤井信吾・藤代市長」は、「藤井信吾・取手市長」に訂正し、お詫び致します。

誌 訂正

### 牛久市議会 2019年第2回定例会予定 (開会時刻はすべて午前10時)

6/17	月	開会、議案上程・提案理由説明
6/19	水	一般質問
6/20	木	一般質問
6/21	金	一般質問
6/24	月	議案質疑、委員会付託
6/25	火	総務常任委員会
6/26	水	教育民生常任委員会
6/27	木	産業建設常任委員会
7/1	月	委員会報告・質疑、討論、採決

てここにすべての日本人向けにお伝えする。

## 墜落事故は原発の弱点

2001年のニューヨーク世界貿易センタービル崩壊事件は、航空機を利用した攻撃であった。そして、原子力発電所の最大の弱点は、航空機が突っこむ墜落事故である。なぜなら、原子力発電所が大地震に襲われた場合を考えると、建屋の重い屋根が崩落して原子炉の上に落下すれば、たちまち末期の重大事故になるので、原子力発電所は建屋の屋根を軽くするようにつくってあるからである。軽いとは、天井が弱くできている、という意味である。2011年の福島原発事故の水素爆発で、建屋が簡単に吹き飛んだのはそのためである。

## 頻繁な航空機事故

したがって、別にテロ攻撃がなくとも、通常の航空機事故が原子力発電所の上空で起これば、原発はそれで一巻の終りとなる運命にある。このことを実証したのが、1988年6月25日に、米軍の大型ヘリ(30ト)が愛媛県伊方原発のすぐ近く=800mのところに墜落した事故であった。この時、伊方原発は、かろうじて助かったが、この墜落事故1年後にも原発から30km程度しか離れていない野村ダム近くに米軍ジェット機が墜落し、1994年にも愛媛県と高知県の県境近くの早明浦ダム湖に米軍

ジェット機が墜落し、さらに1999年にも米軍ジェット機が高知県沖に墜落した。日本中の原発は、このような米軍機の訓練ルートに至近距離にある。航空機事故はすべてが「想定外の事故」なので、場所を選ばず



## 牛久史談会 フィールドワーク

# 明治・宗谷 を訪ねる

牛久史談会は5月、年1回のフィールドワークとして明治と「宗谷」を訪ねました。

牛久市のバスで一路、外苑の聖徳記念絵画館へ。ここは、明治維新と明治天皇を美しく描くために、当時一流の画家を集めて日本画40点・洋画40点の計80点を、当時一流の画家に描かせたもの。横山大観などは断ったそうです。イチヨウ並木は、遠近法が用いられ、絵画館が実際より遠くに見えます。

「宗谷」は1956年、わが国初の南極観測船として、当時「未知の大陸」と呼ばれた南極へ行き、苦難の末、南極観測を成功に導いた船。建造されたのは1938年で、ソ連向けの耐氷型貨物船(船名ボロチャエベツ)として進水しました。そして「地領丸」(貨物船)の名で竣工。「宗谷」となるのは1940年に海軍に所属し、特務艦(南方測量業務)となってからです。



どこでも起こるものである。その訓練ルートを今、超危険な「オスプレイ」が飛行しているのだから、今日までその種の末期の事故が起こらなかったこと自体が不思議であった。

